

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成19年 8月 22日

【評価実施概要】

事業所番号	2875201499		
法人名	(有)日本健康管理システム		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	〒651-2109 神戸市西区前開南町2丁目13-6 (電話) 078-978-1421		
評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	〒666-0016 兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	2007年6月27日	評価確定日	2007年8月22日

【情報提供票より】 2007年6月1日 事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 1月 15日		
ユニット数	3ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	32 人	常勤 11人, 非常勤 21人,	常勤換算6.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋	造り
	3階建て	1~3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

(4) 利用者の概要(6月1日)

利用者人数	25名	男性 6名	女性 19名
要介護1	3名	要介護2	8名
要介護3	10名	要介護4	4名
要介護5		要支援2	
年齢	平均 81歳	最低 71歳	最高 93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐野伊川谷病院
---------	---------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

・最寄の電車の駅からは近く、近隣に店や民家が立ち始めている新興地域である。地域の自治会は無く地域の交流はこれからであるが、小学校の児童の来訪をきっかけに保護者との交流が進みつつある。利用者一人ひとりが地域の一員としての関わりを持ち、ともに支え合えるよう全職員が取り組んでいる。看護師でもある管理者の細やかで機敏な対応は利用者や家族に最後までホームで住み続けられる安心感を与えていると思われる。さらに玄関の施錠についてのホーム側の工夫が期待される。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) ・介護計画の定期、随時の見直しは、毎日の申し送りやミーティングのスムーズな連携により定着してきている。食事作りへの参画は、個別の声かけの工夫で利用者の意識も変わりつつ、参画の機会につながった。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) ・全職員で取り組んだ。その結果、できていないところが明確になり職員間での共有の機会となった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6) ・前回の評価結果の報告とともに、今後の地域の協力がホーム運営にとって最重要であることを説明した。地域の小学校教師の積極的な理解により、児童との交流会から保護者との交流会も予定している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) ・家族の来訪の有無にかかわらず、体調や健康管理についての少しの変化についても詳細に報告し、早めの対応に心がけている。家族等の意見や不安を汲み取る努力と家族が思いを出しやすい雰囲気づくりと声かけの工夫がより必要と思われる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) ・地域の自治会は無いが、近隣小学校の学校行事や児童との交流会に積極的に参加していく。民生委員の発案により、一人暮らし高齢者への行事案内の配布も検討中である。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・「ゆっくり・一緒に・楽しく」という理念が、さらに浸透する努力をしつつ、個々の利用者が地域の一員として関わることのできる環境づくりも前向きに検討している。		・ホームとしての地域での役割や使命を踏まえ、地域に溶け込む姿勢を表わした理念を期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・グループホームの特性や目的を理解し、「ゆっくり・一緒に・楽しく」を基本に利用者本位の普通の生活を実践している。昼食後のミーティングでリーダーを中心に、個別のカンファレンスにより取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・地域の自治会は無いが、近隣小学校の教師が、児童を引率訪問してくれることで交流の機会となっている。学校行事に現在は少数の参加にとどまっているが、今後はできるだけ参加したいと考えている。		
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・前回の改善点（介護計画の定期、随時の見直し）は、すでに現場では実行されている。食事作りへの参画は、個別の声かけを徹底するよう対応した。今回の自己評価は全員で取り組み、出来ていないところへの明確な共通理解がなされた。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・前回の評価結果を報告し、地域の協力が、運営に不可欠であることを説明した。近隣小学校の教師の積極的な参加で、保護者にも関心が広がった。参加民生委員も一人暮らしの高齢者に、ホームの行事案内の配布を引き受けてくれている。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・生活保護の利用者が多数入居されているため、市福祉担当者とは常に情報交換している。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・来訪される家族には、その都度小遣い帳も併せ様子を伝えている。健康面に関しての些細な変化等については、電話で丁寧に説明している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・これまで食材についての要望があり、代表者会議で検討した経緯がある。質問箱も十分活用されてるとはいえないことから、意見を出しやすいさらなる努力が望まれる。</p>		<p>・運営推進委員会を、和やかな意見交換の機会とする努力が期待される。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・フロアごとに職員は固定している。異動は極力しない方針だが、退職者が出た場合は、十分に時間をかけた引き継ぎにより対応している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・今年度1名が、外部研修参加の予定である。日々のOJTを主としており、ケアの個別指導を行っている。</p>		<p>・外部研修への多くの参加は望めないまでも、計画的な内部の総合研修などの仕組みづくりが期待される。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・2ヶ月に1回、西区の管理者・職員交流会に定期的に参加している。そこでは勉強会等も行っている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>・入居前にお茶を飲みながらくつろげる面談の機会を設け、馴染んでもらう場作りに努めている。入居後も馴染みを深めるため家族の来訪をお願いしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>・ホームの基本姿勢(利用者本位)を常に意識しながら、利用者から学ぶ姿勢をとるよう努めている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・利用者の人生誌を把握して、一人ひとりの思いを汲み取る努力をしている。就寝前に、職員がゆっくり話を聞く場合もある。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>・日ごろの利用者、家族とのやりとりを留意し、さらに介護計画に反映させるようにしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>・計画の必要に応じての随時見直しは定着してきている。毎日の申し送り、ミーティングを徹底してスムーズな連携や、記録への反映もできるようになった。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>・医療連携体制を活かし、利用者の受診、入院の送迎、外泊の支援等を積極的に行っている。また、医療処置を受けながらの生活の継続など、多機能性を活かした柔軟な支援も行っている。</p>		<p>・今後は、地域で暮らす認知症の高齢者に対しても、介護保険サービスや自主サービスによる支援を期待したい。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・本人家族の希望で、眼科のかかりつけ医を受診している人もいる。事業所の協力医とかかりつけ医は連絡を取り合い、入所前の健康診断や夜間の緊急時の対応も行われている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>・法人として「看取り介護に関する指針」を作成しているが、さらに現実にあったものとするため検討中である。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>・職員全員にプライバシー尊重の徹底を図っている。契約書に秘密保持の条文を入れ、職員とは誓約書を交わしている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・職員は、利用者一人ひとりの生活のリズムや個性の違いを把握記録し、理解して、本人の希望やペースに合わせた個別ケアを行うよう努めている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食材は外注メニューで毎日配達されるが、調理や味付けは各ユニットで行われている。食事の支度や後片付けは、それぞれ得意分野で利用者も参加している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・利用者の体調に気を配りながら、入浴を楽しんでもらえるよう努めている。高血圧や心臓病の人もいるので、冬季の温度変化には特に気をつけている。		・利用者からの希望があればその時間に入浴できるよう努めている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・利用者の個性や得意なことを把握し、毎日の廊下や玄関掃除、植物への水遣りなどの役割をもってもらい、職員も一緒に楽しみながら支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・散歩は近くの公園に、買い物は週1回は出かけられるよう支援している。 ・敬老会を事業所で開催、遠足、花見、小学校との交流など外出の機会も作っている。		・外食や喫茶など個別の希望に添った外出支援に期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・施錠しない努力をしている。人手の多い日中10時から16時までセンサーによる見守りで、施錠しない時間としている。		・なるべく施錠しない生活に戻したいという職員の努力に期待したい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>・年2回の消防訓練を実施している。通常の避難訓練と夜間想定の実践的な訓練である。</p>		<p>・災害時は地域の人たちの協力は欠かせないので、常日頃の交流を深める工夫が求められる。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>・個人台帳で食事の摂取量と水分量の少ない人を注意し記録して、過不足のないよう配慮している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・居間や食堂は、全体に明るくゆとりのある空間で、所々に長椅子やベンチが置かれ、横になっている利用者も見受けられた。田園風景も残っている地域で、窓からの見晴らしもよく、利用者は穏やかな生活を楽しんでいる。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・居室の広さは十分で和風、洋風に使い分けられている。自分の家具を持ち込み、住み慣れた空間となっている。</p>		

 は、重点項目。